

ホーム名：医療法人明生会グループホーム片町苑					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にっなげている	事業所独自の理念をつくり、管理者が率先垂範し具現化に努めている。理念は各フロアに掲示し、全職員で共有し、来訪者にも認知していただいている。風土の醸成が今後の課題である。	理念は各ユニットの玄関に掲示されている。ホーム長の思いを利用者、家族、職員に示しているものと思われる。	掲示は小さい額に入れて置かれている、言葉数をもう少し減らし、思いを凝縮した形にし、一目瞭然とされると、尚良いのではと思われる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶は勿論のこと、食材料の購入やご利用者様の買い物などで近隣の商店を利用させて頂いたり、自治会の催しに参加させて頂く中で、少しずつではあるが、なじみの関係が築けてきた。	グループホーム片町苑のある医療法人明生会ビルの事業所全体で自治会に入っている。年始行事、だんじり祭りなど地域の行事などにはホームの前のガレージで獅子舞、地車槍回しなどを披露してくれる。ホーム自身も、地域の住民であるという意識を持ち、溶け込むよう努めている。	地域の方も災害時には協力すると言ってくれているとのこと。高齢者問題の相談所と自覚し、地域にも還元していただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に貢献できるよう努めているものの「自治会からの働きかけに応じて」といった受け身の姿勢であったことは否めない。今後は、事業所主催の認知症ケアに関わる講習会の開催など、事業所独自の力を活かした地域貢献に向けて、積極的な働きかけを行っていききたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	双方向のコミュニケーションが図れることで、地域に開かれた事業運営への理解が深まってきている。ご利用者様が地域とつながりながら暮らし続けられる環境を共に作っていく体制が整いつつあり、サービス向上に大きく寄与している。	運営推進会議は事前に参加をお願いに行く時点で次々回の日程も知らせ、参加者が予定に組み込み易くしている。議事録も作成し欠席者にも届けて、次回の参加につながるよう努めている。	参加呼びかけの努力が実り、会議の参加者は定着している。議事録からは活発な会議内容となることがうかがえる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	さまざまなコミュニケーションツール（電話・メール・面談）を活用し、主に市や区などと連絡を密にとり、最新情報や必要に応じ助言・指導を賜ることで、ご利用者様へのよりきめ細やかな支援に努めている。	市町村とはホーム長の交代、その他変更事項などの報告、相談など連絡を密にして、協力関係を構築している。	市町村との連絡を密に取ることで、利用者や家族の支援につながるものと考えられる。今後とも市町村との連携を継続されたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	事業所独自の方針、マニュアルを整備し、全ての職員への意識啓発を行っている。今後も、内外研修受講の機会を積極的に設けていくことで、職員への啓蒙活動を継続的に実施し、意識レベルの底上げを図っていきます。	身体拘束について正しい認識を職員に啓発する機会を作る、とホーム長は考えている。1階のデイケアセンターとグループホームのドア、エレベーターホールの各ユニット玄関の施錠はしていない。	職員の異動があり新任職員が増えたので、この機会に身体拘束についての認識の共有を図るとのことである。積極的に進められたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員は外部研修にて学ぶ機会を設けている。他の職員においても認識を深めることができるよう、研修で配布された資料等は自由に閲覧できるようにしている。また、EV内にポスターを掲示するなどして啓蒙活動を行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している</p>	<p>一部の職員は外部研修で学ぶ機会を持っており、状況に応じそれらをご利用者様の支援に活かすことができる。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、利用約款を用い口頭で詳細な説明を行い、理解・納得を得ている。また、解約の際も利用者や家族等の心身の状況、希望等を勘案し、必要な援助を行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的なコミュニケーションの中で、ご意見・ご要望を収集し、運営に反映させるよう努めている。また、代表者や法人事務員、往診歯科医等の外部者へ胸中を吐露できる環境や、各階EVホールに意見箱を設けることで、直接職員に口頭では言いづらいことを文書でお知らせいただける体制を整えている。</p>	<p>ホーム長は柔軟な気持ちで利用者、家族の意見を出してもらえるように努めている。意見箱の横には書き易いように用紙も準備しており、苦情だけでなく良いと思うことも書いてもらうようにしている。</p>	<p>何気ない一言からも、利用者、家族の意見とくみ取っていくことを続けていれたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日常的なコミュニケーションは勿論のこと、全体会議、フロア会議、個人面談等の機会を定期的に設け、必要に応じそれらを反映させている。</p>	<p>現場の介護者がいるからホームは成り立っているという気持ちで、職員の意見を謙虚に聞く姿勢が大切であるとホーム長は考えている。</p>	<p>ホーム長に直接伝えたり、ユニット長に伝えてからホーム長に届くなど、職員の意見は出やすくなっている。意見が出し易い環境づくりを今後も期待する。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、日常的に全職員が向上心を持って働けているかの現状把握に努めている。また、必要に応じ個人面談などの機会を設け、職場環境や条件の整備を検討している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修においては、全ての職員を対象にしたカリキュラムとなっているが、外部研修においては、受講頻度が高い職員が限定されている為、今後は更に全体の知識や技量の底上げが図れるよう、受講対象者の門戸を拡大していく。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>相互訪問実施や、全国認知症グループホーム協会のホームページなどから情報収集し、サービスの質の向上に繋げている。今後、同業者とのネットワークを構築することで、更なるサービス向上を図っていきたい。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お問合せ、見学時から、受容・傾聴・共感の姿勢を保ち、ご利用者様が抱えていらっしゃる不安材料をひとつでも多く吐露して頂くことで、打開策などを模索し提案することで、ご本人の安心感に繋がる関係が初期の段階で築けるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お問合せ、見学時から、受容・傾聴の姿勢を保ち、ご家族様が抱えていらっしゃる不安材料をひとつでも多く吐露して頂いている。また、打開策などを模索し提案することで、先ずはご家族に安心して頂き、ご本人の安心を確保するための関係が初期の段階で築けるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じて、適切なサービスの紹介や申込の支援などもしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の中で様々な事柄を共有し、教わり、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族等来苑時は勿論のこと、電話や定期的に郵送しているお手紙などで、ご利用者様の状態を伝える等、積極的に情報交換することで、共にご本人を支えていくという関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>施設入所が理由で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会や外出のご希望には極力お応えできるよう支援している。</p>	<p>自宅に日帰りで帰ったり、昔の友人が訪ねてきてくれたり、馴染みの関係が途切れないように支援をしている。まだ十分出来ているとは言えない。</p>	<p>ホーム長はなるべく利用者の思いに添った外出支援を目指しているが、まだ思いも半ばと言える。今後の努力を期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常的に利用者同士の関係を把握し、職員見守りの中で利用者同士の関係が心地よくなるよう支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>継続的な関わりを必要とする利用者や家族には手紙を送付したり、面会に行くなどの支援している。また、サービス終了時にはいつでも立ち寄っていただけるよう声をかけている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、本人の想いを汲み取るよう努めている。本人の想いに沿った対応ができるよう検討し支援している。	毎日利用者を注意深く見ていると、思いも見えてくる時がある。その見つけて思いをくみ取ることが大切にして、日常業務を行っている。	思いをくみ取ることが一番介護職に求められると考える。新任、ベテランの職員の夫々良さを活かしながら、利用者を見つめ、思いのくみ取りを図られるよう期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	契約時、ご本人やご家族からのお話を傾聴し、生活歴の把握に努めている。入所後は、個人のケースファイルにご意向を含めた情報やケアプランを通じた経過観察などを記録し、全ての職員が共通の情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケースファイル記録や職員間のコミュニケーションによる情報交換を通じ、一人ひとりの暮らしの現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、計画作成担当者、職員、主治医、担当看護師などが、それぞれ意見を出し合い、その要望・意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画はの本人・家族の意向並びに医師・看護師、職員の意見を入れて、6ヶ月3ヶ月目標を立てて介護計画作成担当者が作成している。	介護計画は家族の確認も貴い必要に応じて開示している。看護師が各ユニットに常駐していることは、介護計画にもその専門知識を活かして作成できる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などに関しては詳細に日誌やカルテ、ケアカンファレンス等で情報共有しており、職員によってバラツキのないケアの実践や介護計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「医療連携」や「個別ケアサービス」などご本人やご家族の状況に応じて柔軟なサービスを提供できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会と運営推進会議の参加や日常交流などを行い、盆踊りや秋祭り、緊急時の避難計画などの連携を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	契約医療機関が同法人の救急指定病院ということもあり、入所時にかかりつけ医の変更を希望されるケースが大半を占めていることもあり、かかりつけ医と事業所の間には盤石な連携体制があり、24時間いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医について利用者・家族に希望を聞いている。提携先病院の往診については、病院からの送迎車も来てくれることなど利便性もある。	提携先病院の利用について、左欄の利便性もあるので提携先病院に主治医を変える利用者もいる。今までの主治医の受診を続けている利用者もいる。全て利用者の意志を尊重している。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常の関わりの中でとらえたタイムリーな情報や気づきを、申し送りシートなどを通じ、各フロアの看護職員に伝達する体制を整備しており、日常的に適切な看護が受けられる体制を整えている。また、看護職員が契約医療機関とのパイプ役となり、通常時はもとより、特に状態悪化時における主治医との連絡・調整を行える体制がある。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>お見舞い等の機会を設け、ご本人やご家族の不安解消を支援している。また、病院関係者との連絡を密にし、情報交換をすることで、退院後も切れ目のないケアの提供に努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を用い、口頭で詳細に説明を行っている。しかし、入所時にご本人またはご家族の明確な意思を確認できるケースはないに等しいため、個別面談時などの機会を通じ、都度相談に応じる体制を整えている旨をお知らせしている。</p>	<p>重度化したときの指針を作っている。指針では看取りの診断がおりた時点で、ホーム内で体制をとり、家族の同意と協力を得て、看取りをホームであることを決定する、という過程になっている。</p>	<p>終の棲家としてグループホームに入居される利用者は多いと思われる。本人・家族が望めば看取りはホームでもらえることは、安心した終末の生活が送られることになる。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>内外研修を通じ学ぶ機会を設けている。また、ヒヤリハットを通じケーススタディーすることで、より実態に則した知識などのブラッシュアップに努めている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防機関に参加していただき避難訓練（内1回は夜間の避難）を実施しており、消防機関からの助言に基づきブラッシュアップを行っている。また、自治会を通じ取得した地域の災害対策情報や非常口・避難経路・避難方法等を職員に定期的に周知することで、不測の事態に備えている。</p>	<p>消防訓練は年2回であるが予備として3回は予定している。地域の協力も得られることもあり、避難対策は万全とも思えるかもしれないが、万全に安心しきれない対策も考えていただきたい。</p>	<p>準備は万全であることから、職員がいかに対応できるかにかかっている。職員に定期的な心構えの訓練をされたい。備蓄品については近くの同法人の老健に備蓄されている物を、共同で使用することになっている。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>全ての職員が、内外研修で人格の尊重やプライバシーの確保に関して理解を深める機会を持ち、実践している。</p>	<p>高齢者に対し、職員の言葉使いはどうあるべきか、親しみのある言葉と馴れ馴れしい言葉の違いを認識することなどから、引続き職員を指導してゆきたいとホーム長は語った。</p>	<p>高齢者の自尊心を傷つけないと言うことは、利用者を尊重しているかどうかである。利用者にはいやな思いをさせないことが最大の尊厳の確保である。これからも継続されたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>受容・傾聴・共感の姿勢を心掛け、ご本人の意向を伝え易い雰囲気作りに努めている。また自己決定できるように積極的な働きかけを行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人の希望やその日の体調を考慮し、散歩やレクリエーション、家事手伝いなど、一人ひとりが楽しく穏やかに過ごすことができるよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節に応じ衣替えを行い、本人が選んだ衣服を着ていただいている。また、希望者には希望の理美容店に通えるよう支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材を切る、混ぜ合わせる、盛り付ける等、利用者と職員が協働で楽しみながら食事の準備を行うことで、食事が楽しみなものになるよう支援している。</p>	<p>食事は配食業者2箇所からメニューを取り寄せ、変化を持たせるように選んでいる。これからは昼食をホーム内で皆で作って食べる日を計画する予定である。</p>	<p>食事は高齢者にとり数少ない楽しみの一つである。イベント的昼食は勿論楽しみではあるが、主惣菜をホームで作ることも視野に入れて考えられたい。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分摂取量は利用者様ごとに記録し、状況を把握しながら、栄養補助剤やアルカリイオン飲料水などで不足分を補うなどの支援を行っています。また栄養バランスに関しては、法人の管理栄養士の助言を得ながら調整しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施し、ご自身でケアできない場合や、磨き残しの支援など一人ひとりの状態に合わせて行っている。また、定期的な歯科医師の往診があり、個別でアドバイスを受け実践している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、適宜職員から声かけや誘導を行い、本人が不快とならないよう排泄の支援をしている。</p>	<p>他施設で、予防着着用の入居者が、職員の努力によりトイレで排泄が出来るようにまできた例がある。また、歩いてトイレに行くように努力した結果、トイレでの排泄が出来るようになった入居者もおられる。排泄の自立に向けた支援が、職員の努力の下、実を結んでいる。</p>	<p>トイレでの排泄は、それまで出来なかった人に対しては大きな自信の回復となるものである。尊厳を傷つけないよう気を配りながら、排泄の自立に向けた支援を今後も引き続き願いたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便状況や下剤服用の把握、十分な水分摂取と献立の工夫、散歩や体操で身体を動かすなどで働きかけを行ったり、腹部マッサージを適宜行うなどの支援を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の意思確認を行い、1対1でゆっくりコミュニケーションをとりながら楽しく入浴していただけるよう支援している。</p>	<p>朝に入浴希望の声かけを行い、一人ひとり希望に添った支援を行っている。入居者によっては1階のデイスービスの特浴を利用し、職員2人での支援も行っている。感染症予防の為、毎回毎回湯換え・洗浄を行っている。</p>	<p>毎回の湯入れ換え・洗浄は経費や労力もかなり大変な事であるが、衛生面の上からは是非引き続き継続されたい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>職員が、個々の生活習慣を把握し、声かけを行うことで、利用者一人ひとりの生活リズムを整え、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各利用者が服用している薬情報ファイルを作成し、職員全員で情報共有しており、症状などを個別に記録している。なお、服薬管理は各フロアの看護師が行っている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者の残存能力を活かし、調理、後片付け、洗濯物整理などの役割を持っていただくなど、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物・散歩などを通じ、生活リハビリ・日光浴・外気浴等を随時行うなど、希望に沿って外出できるよう支援している。</p>	<p>気温の変化の激しい冬場などは散歩の機会は減るが、買い物などを利用して外出支援はなされている。散歩（30分～1時間程）やその他外出は、時間帯をずらしながら利用者とマンツーマンでの行き届いた支援がなされている。</p>	<p>程良い距離にあるショッピングセンターへの買い物や大阪城公園での散歩は、四季を感じたり、利用者にとり気晴らしにもなる。将来的に小旅行を考えられていることから、利用者の足腰の訓練も含め、毎日の外出支援を継続されたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な限り本人にお金を持っていただけるよう、利用者の力やご希望に応じた支援を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者によっては携帯を所持されており、ご家族などに電話されている。また、携帯を所持されていない利用者に対しては、ご家族に確認の上、ホームの電話でお話していただいている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間の清潔保持のため、毎日の清掃はもちろん、「美空ひばり」「懐かしのDVD」などリビングにある38インチテレビで画像をお楽しみいただいております。また、毎月カレンダーを利用者と共に作成し季節感を出したり、掲示板に利用者の作品や季節の装飾を行っている。</p>	<p>早出の職員が毎朝清掃を行っており、清潔である。備品は壁収納され、廊下はすっきりとしている。リビングは広く、対面式キッチンから入居者の様子も良く見渡す事ができる。2階ベランダの小スペースを利用して、ちょっとした催しも可能である。</p>	<p>十分な広さのリビングであるが、テーブルが大半の場所を占めている。テーブルの配置変えなどで、くつろぐ場としてのスペースを作ってみることを考えられたい。リビングでの事務を取る場所周りを少しすっきりさせたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングは、ダイニングテーブルと椅子、ソファを配置し、入居者同士で談笑したり、TV観賞するなど、入居者のくつろぎの場となっている。また、ベランダやEV前にソファを配置し、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れたなじみのものや本人の気に入りのものを持ち込んでいただいている。また、安全に配慮するなど本人が居心地良く安全に過ごせるよう工夫している。</p>	<p>クローゼットが各室設えられている。防災カーテン・準不燃材料の壁紙・スプリンクラーが設えられ、安全対策にも配慮されている。筆筒や手芸用机・ついたてなどの馴染みの品の持込で、生活感漂う居室もある。</p>	<p>馴染みの品の持ちこみで生活感が漂う居室もあるが、反面、殺風景な居室も見受けられた。本人や家族と話し合い、日時の認識のためにもせめて時計・カレンダーなどは壁に掲げられたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーに配慮しており、車いす、歩行器等の通行に支障のない幅員を確保し、滑りにくい塩ビシートにて転倒の未然防止にも配慮している。なお、厨房は入居者とスタッフが協働できるスペースとレイアウトになっている。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない